

事例の概要

世界遺産に登録されている石見銀山に関する調査・研究の成果、地域との関わり
のあり方を体系的に整理し、学術の各分野に発信することで、地域学としての深
化と地域の歴史や文化に対する住民の誇りの形成を行う。



学習施設

事例の内容

大学教授、博物館館長、文科省職員で構成

事業内容

有識者会議の開催経費、学習教材の作成等

総事業費

平成23年度 3.0百万円
(うち過疎債 2.0百万円)

(参考:過疎債ソフト)
H22年度:20百万円基金積立
→平成24年度以降当該事業
に充当予定

事業の効果

石見銀山の価値を体系化することで、来訪者の遺産への興味
の喚起のみならず、児童生徒を含む市民の遺産への関心と愛
着を育みつつある。



有識者会議

ポイント

- 石見銀山の価値をより分かりやすく伝えることで、観光誘客や住民の地域
理解を促進している。(H25年度石見銀山の概論書を刊行予定)
- 学校教育での活用を通じ、将来地域で活躍する人材の育成を図る。



教員によるワークショップ

市内のほぼ全ての小中学校で
石見銀山学習を実施